



Corporate  
Social  
Responsibility  
Report

**2016**  
CSR 報告書





顧客のニーズに応え、  
人と環境にやさしい道づくり

## 発行目的

2007年から「環境報告書」を発行して、前田道路の環境への取り組みに関する情報をお伝えしてまいりました。2013年からはステークホルダーの皆様に対して、当社の事業活動における社会的責任について報告することを目的として、「CSR報告書」を発行しています。

## 報告対象組織

前田道路株式会社

## 報告対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日  
当該年度以外の内容も一部掲載しています。

## 見通しに関する注意事項

本報告書は、前田道路株式会社の過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通しに基づく将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定ないし判断です。さまざまな要因によって将来の事業活動の結果や事象が予測と異なったものとなる可能性があります。ステークホルダーの皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。

## CONTENTS

■ トップメッセージ	4
■ 事業紹介 前田道路の事業フィールド	5
■ 《特集》 座談会	6
■ 環境性報告 2015年度 各部門の実績と評価	10
環境に配慮した工法・技術	12
省資源・資源循環の推進	14
■ 社会性報告 地域社会とのコミュニケーション	16
従業員とともに	18
マネジメントシステムの推進	19
災害への対応	19
■ CSRマネジメント 全社基本方針	20
□ 会社概要	22
■ 第三者意見	23

# 人と環境を大切にし、社会に役立つ事業活動で貢献します。

## 私たちを取り巻く状況

経済のグローバル化と情報コミュニケーション技術の高度化により、人や物資の移動網がグローバルかつ、きめ細やかに整備されるなど私たちを取り巻く状況は日々変化を続けています。

世界的なエネルギー需要の増大や地球温暖化の進行、大型台風やゲリラ豪雨などに象徴される自然災害の多発に加え、国内的には高齢化社会に対応した医療制度改革の必要性や少子化の進行による労働人口の減少など、さまざまな問題が山積しています。

企業は、持続可能な社会の実現に向けた事業活動について、お客様、株主、取引先、地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様の観点から、改めて見つめ直す必要があります。

## 環境に対して

地球温暖化をはじめとした環境問題は、企業として対処すべき重要なテーマです。

当社は持続可能な地球環境の実現のため、低炭素社会へ向けた取り組みとして「人と環境を大切にしたい事業活動」を推進することを目的に、「経営の理念」「環境理念」を定めています。

この理念のもと、道路建設という社会性、公共性の高い事業を行う企業として、以下の3項目を事業活動の柱としています。

1. 地球温暖化防止策としてCO<sub>2</sub>排出量の削減
2. 循環型社会形成を目指したリサイクル事業の推進
3. 環境配慮型技術の開発

これらを複合的に組み合わせ、CO<sub>2</sub>総排出量の削減を図り、環境負荷低減に取り組んでいきます。

## 社会に対して

当社は社員、地域の方々を大切に、安全・安心に寄与する地域貢献型の企業を目指しています。

災害時には全国各地に展開する営業所を、復旧活動の拠点とし、地域の方々の支援施設としても運用するため、設備のリニューアルを推進しています。今後も年間10ヵ所程度の整備を継続し、支援拠点を増やしていくことで地域貢献をかたちにするとともに、地域の方々と環境を大切に、社会からの信頼を勝ち得よう努力していきます。

しかしながら当社は、2016年2月29日に東日本高速道路株式会社東北支社が発注する東日本大震災に係る舗装災害復旧工事の入札に関して、独占禁止法違反の疑いにより東京地方検察庁から起訴され、同年9月7日に罰金刑を受けました。

また、東日本高速道路株式会社東北支社が発注する工事および東日本高速道路株式会社関東支社が発注する工事に関する排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。

当社は、このような社会からの信頼を失いかねない事態に至ったことを極めて真摯に受け止め、社外調査委員会を設置し、その

提言に基づいて再発防止策を策定しました。今後におきましても独占禁止法遵守をはじめとするコンプライアンスの一層の徹底に取り組んでまいります。

## これからの前田道路

1930年（昭和5年）に創業して以来、道路事業をはじめとするさまざまな事業への取り組みを通じて地域社会の発展に貢献してまいりました。私たちの事業活動は、人と社会をつなぐ重要な社会基盤である“道路”をつくり、守る、という大切な役割を担っています。

当社が社会に役立つ企業として成長していくためには、多くのステークホルダーの皆様からの期待にしっかり応え、「安全、安心、良い仕事」で、安定した豊かな社会の構築に貢献することが、社会的責任を全うすることと確信しています。

今後も、ステークホルダーの皆様方に当社の社会貢献活動、環境保全活動の取り組みに、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 今枝良三

# 前田道路の事業フィールド

前田道路は社会資本の整備と地域社会の豊かな生活に貢献するため、80年以上にわたり道路づくりを続けてきました。バリアフリー設計をはじめ、人や車の往来の「安全」を守る。地域に根づいた文化や景観に寄りそう。そして地球環境への負担を軽減する。私たちは事業活動を通して、人が住む環境の維持・改善に徹底して取り組んでいます。

製造・販売事業  
764億円

## アスファルト合材

アスファルト合材の製造は、道路工事とともに事業の大きな柱となる分野です。スムーズに製品を提供できるよう、全国各地に拠点を構えています。



岐阜合材工場

## 破碎処理

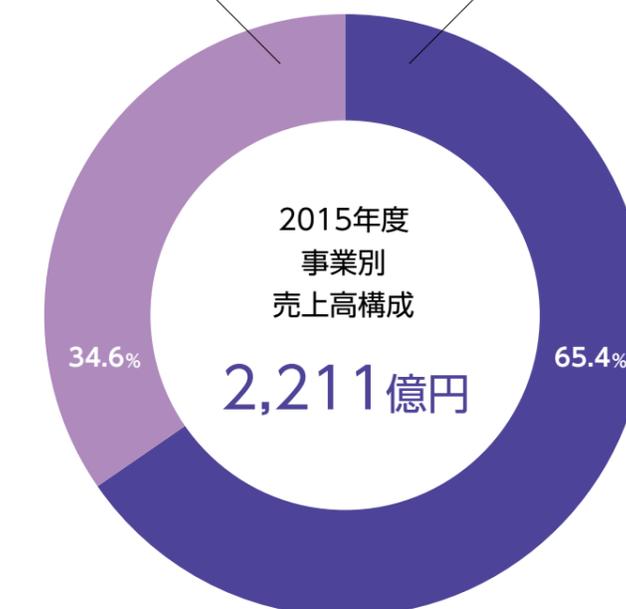
産業廃棄物削減のため、建設現場から排出されるアスファルト塊やコンクリート塊などを受け入れ、材料として再利用しています。



千葉破碎工場

## 段差補修材／常温合材

ご家庭でも手軽にお使いいただける商品も製造・販売しています。



工事業業  
1,447億円

## 高速道路

環境配慮型の製品・技術も導入。高品質な高速道路で地域と地域をつなぎます。



東九州道（佐伯～蒲江間）

## 道路舗装

主要国道から一般道路、被災道路の復旧にいたるまで、現場のニーズを正確に把握し最適な舗装工事を行います。



北勢国道

## スポーツレジャー施設

道路づくりで培った技術を活かし、野球場をはじめ、テニスコートやバスケットボールコートなどのスポーツ・レジャー施設の建設を行っています。



立教大学野球場（新座キャンパス）

2030年に創業100年を迎えるにあたり、前田道路をこれまで支えてきたベテラン社員とこれからを担う若手社員が「2030年の前田道路」に向けて語り合いました。



**真壁**：今回の座談会では、仕事のことだけでなく、社会問題や環境問題など、さまざまな内容について意見を出していただき、これからの前田道路が果たすべき社会的責任について、改めて考える機会になればと思い企画いたしました。

**時代の変化とニーズの変化**

**松田**：創業100年を迎える2030年に向

けてのお話の前に、これまでの日本の道路環境や前田道路さんのこれまでを教えてください。

**岡本**：道路は社会のインフラとして大きな役割を果たしてきましたが、1990年のピーク時に比べ、昨年には半分ほどの合材出荷量となりました。また、1980年頃から普及したリサイクル合材は、現在では全出荷量の7割を占めるようになり、当社でもリサイクル合材や、リサイ

クル骨材を製造する設備の新設が進んでいます。

**守安**：道路工事に対する社会の変化としては、長寿命化やライフサイクルコストを考えた中で、予防的修繕舗装を考える時代に変化しつつあります。

**常に進化を求め、社会基盤を築き上げて86年**

**岡本**：工事では、昭和50年代までは大規模工事をメインに仕事をやっていましたが、徐々に民間の駐車場などの小規模工事に切替え、現在は事業の中心になっていることが、今の我が社の強みです。

**松田**：前田道路さんの製品や技術では、ヒートアイランド現象を緩和する「ヒートオフパイプ」や、緊急災害時の補修に簡単に使える「マイルドパッチ」など、社会に役立つさまざまな商品があります

ね。

**守安**：手軽に持ち運びができる常温合材が欲しく、長年開発に向けて動き、ようやくできたのが「マイルドパッチ」です。アスファルトの天敵である水を入れると、これまでと真逆の発想の製品なので、当初は売れるわけがないという声が多かったのですが、1年目に2千袋、2年目に1万袋、3年目には当初目標だった30万袋を販売しました。

**資源の有効活用と効率の良いリサイクル技術を目指して**

**松田**：製品開発も素晴らしいですが、年間約800万tの廃棄物を受け入れるなど、ゴミ問題にも大きく社会に貢献していますね。

**守安**：社会のニーズもあり、再生アスファルト合材が増えています。技術革新もあり、今では全てのアスファルト合材が



**関 友章**  
北関東支店 朝霞合材工場  
営業職5年目



**田野本 寿彦**  
東京支店 北営業所  
事務職4年目



**景山 功朗**  
北関東支店 埼玉営業所  
土木職4年目



**千葉 惟平**  
東北支店 古川合材工場  
機械職4年目



**平野 麻衣子**  
技術本部 技術研究所  
試験職2年目



**松田 まどか**  
CSRナビゲータ (司会・進行役)

再利用できます。再生アスファルト合材をつくる技術と同様に、施工技術の改善を行いました。

**岡本**：工場では循環型社会を目指しリサイクル事業を推進しています。そのため、4年前から破砕工場の増強工事を行い、平成25年には980万tの製造をしており、今期は日量5万tの製造能力を計画しています。

### 若手社員に聞く！ 入社して思うこと

**松田**：みなさんは入社して1～4年経ちますが、今の仕事はいかがですか。

**関**：純粋に楽しく仕事をしています。今勤務しているのは当社で2番目に大きな工場で、多くの人の出入りがあります。もともと人と関わることが好きで、初めてのお客様にも、昔からのお客様にも自分から積極的に接し、信頼を得られるよう心がけています。合材をどのようにしたら買っていただけるのかなど上司と相談しながら考え、売上が上がった時は本当に達成感があります。

**千葉**：3年目の昨年、大規模な設備投資に関わらせていただき、かなり大変な仕事でしたが、さまざまな経験をしたことが今の仕事に役立っています。設備投資は、企業にとって大切な事業のひとつですので、これから多くの案件に関わっていききたいです。

**景山**：私は土木職ですが、入社3ヶ月でひと通りの仕事を任せていただきました。学生時代の仲間に聞いても通常は1年く

らい上司に付き、2年目から独り立ちという会社が多いのですが、一つの現場を任せられることで自信や経験、そしてやりがいにつながっています。

**田野本**：会社説明会の時に初めて「ブロック制」という言葉を聞いたのですが、独立採算制をとっていることで、一人ひとりが重要なポジションになり、他の会社では経験できないような責任ある仕事につけると感じました。今では自分の成長を感じ、やりがいを持って仕事をしています。

**平野**：大学では生物工学を専攻し、肉眼では見えないほど小さなものを対象に研究していました。現在は大学で学んでいたこととは異なることを行っていますが、とてもやりがいがあり楽しく仕事をしています。

### 個人の能力を活かす社風

**松田**：前田道路さんは「ブロック制」という独立採算制をとっており、各事業所の職員が職種の範囲を超えた業務を担っていたり、各自の考えを大切にしています。

**関**：私は営業職ですが、実際に現場作業のお手伝いをする機会があります。色々な方のお話や、営業職以外の仕事もすることで、お客様への提案の視野が広がっています。

**守安**：小型工事が多いので、一日に数カ所の工事を行うこともあります。ですので、営業も現場の仕事を手伝います。その経験が職務に活かされていると思いま

す。

**松田**：製品開発の面での自由さはいかがですか。

**守安**：研究所では3、4人を一つのグループとしています。そのグループで性能向上のための研究を行うのですが、意見は自由に発言してもらっています。その中から、マイルドパッチのような製品が産まれるケースもあります。自由な発想や研究は、これからもどんどん行って欲しいですね。

**松田**：2年目の平野さんはいかがですか。

**平野**：まだまだ分からないことだらけですが、指示されたことだけをこなすのではなく、自分なりに考えたことを研究することができています。いずれは「マイルドパッチ」のような社会に役立つ製品づくりの研究に関わりたいです。

### 労働環境の変化

**松田**：ここ数年、前田道路さんでは時短勤務、ダイバーシティ、事務所の建て替えなど、労働環境を大きく改善していますが、これからの労働環境をどう思いますか。

**田野本**：諸先輩方の時代と比べると、今は労働時間に規制がかかっているため労働時間が短く、同じようなペースで仕事をしていると、個人個人の成長が遅れていると感じています。効率のよい仕事方法を考えなくてはならないと実感しています。

**平野**：近年、道路業界で働く女性が増え

ていますが、まだ、女性の受け入れ体制が整っているとは言えません。男性と女性の適性の違いを上手く活用し、道路業界がより発展するよう、男性にとっても女性にとっても働きやすい環境づくりが進むことを期待します。

### 創業100年を迎えるにあたり

**松田**：創業100年を迎える2030年までに、前田道路さんとして何が必要だと思いますか。

**景山**：同業他社や地元企業との競争は否めません。私たちが常に行ってきた、お客様とのコミュニケーションと信頼性が大切だと思います。技術面では、IT技術を活用した作業ロボットや省力化施工、情報化施工が必要であると思います。

**千葉**：特殊機械や特殊技術の必要のない施工の確立など、少子高齢化による職人の減少に対してハードの面でカバーする技術開発を行う必要があると思います。

**平野**：科学的根拠に基づいた、「高機能性舗装の開発」ができる研究開発力、技

術開発力をさらに向上していくことが必要であると思います。

### 2030年に向けて

**松田**：2030年に向けて、みなさんの想いをお聞かせください。

**関**：土木というと、働く環境において肉體労働でとてもキツイというイメージが若者にはあると思います。前田道路の仕事が魅力的であることをしっかりと若い世代に伝えられるようにしていきたいです。

**田野本**：人口減少・高齢化が進み、人材確保が急務です。それには労働環境の改善が必要かと思っています。女性が活躍する場を増やしたり、専門職でなくても施工業務ができるような技術開発が実現できれば良いですね。

**景山**：製品はもちろんですが、施工やサービスに関して今まで以上の「質の向上」、そして仕事の効率化の仕組みをつくる必要があると思います。

**千葉**：IoT技術を駆使した機械設備など

の遠隔操作や、簡易な操作などを進めることで、働く環境も変わると感じます。

**平野**：今後は道路の補修・改善の仕事が増えてくると予測されています。今まで以上に舗装に色々な機能を備え、付加価値がつけられれば良いと思います。

### 若手社員に期待すること

**岡本**：これまで、新たな材料・工法が開発されることに合わせ、施工方法や使用する機械なども、既存の形から大きく変化してきました。これから先も、さらなる変化が予想されます。その時代に、しっかりとついていけるようみなさんのこれからの活躍に期待します。

**守安**：道路の世界だけではなく、世の中の変化が激しい時代です。社会の変化をいち早くキャッチしていくことで、社会のニーズにあった製品開発、サービス、施工、技術などを提供でき、持続可能な社会を構築する企業になると思います。みなさんには「変化を見抜ける力」をつけていただきたいですね。



**岡本 澄雄**  
製品事業本部 機材部 部長



**守安 弘周**  
技術本部 技術部 部長



**真壁 三穂**  
管理本部 総務部 総務課 (CSR事務局)



# 持続可能な地球環境のために

## ● 環境理念

わたしたちは、『経営の理念』の精神に則り、環境問題を企業の社会的責務の中の重要な課題と認識し、『人と環境にやさしい道づくり』のローガンのもと、環境への負荷を低減し持続的発展が可能な社会を形成することに貢献すべく、環境への配慮を組み入れた事業活動を展開する。

## ■ 2015年度 各部門の実績と評価

2015年度における環境行動計画の実績は、下記の通りです。2015年度実績の評価をもとに設定した2016年度目標を達成するために、環境保全活動のさらなる改善を継続的に取り組んでいきます。

### ● 環境行動計画と目標（2015年度実績と評価）報告

🍀 達成
 🍀 概ね達成
 🍀 あまり達成できなかった
 🍀 達成できなかった

環境目的	対象部門	2015年度 目標	実績	評価	2016年度 目標	関連記事
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	製品部門	前年度比 1.5%削減	前年度比± 0%	<span style="color: green;">🍀</span>	前年度比 1.5%削減	P.11
		熱効率改善型*燃焼システム 4ヵ所設置 (累計16ヵ所)	5ヵ所 (累計17ヵ所)	<span style="color: green;">🍀</span>	熱効率改善型燃焼システム 10ヵ所設置 (累計27ヵ所)	P.11
	オフィス部門 (本支店)	前年度比3.0%削減 (オフィスの使用電力量)	5.1%増加	<span style="color: green;">🍀</span>	前年度比 3.0%削減 (オフィスの使用電力量)	
リサイクル資材の有効利用	製品部門 (合材工場)	前年度比3.0%増加 (再生品の製造)	2.4%減少	<span style="color: green;">🍀</span>	前年度比3.0%増加 (再生品販売数量)	P. 14
オフィス廃棄物の削減	オフィス部門 (本店)	前年度比16.1%削減 (紙類を分別し再利用を推進、可燃ゴミ削減)	23.2%増加	<span style="color: green;">🍀</span>	前年度比10%削減 (紙類を分別し再利用を推進、可燃ゴミ削減)	
環境に配慮した工法の提案営業	技術部門	提案件数 60件 (環境に配慮した工法)	78件	<span style="color: green;">🍀</span>	提案件数 60件 (環境に配慮した工法)	P. 13
環境に配慮した工法の受注確保	技術部門	受注率 30% (提案件数比)	45%	<span style="color: green;">🍀</span>	受注率 50% (提案件数比)	
環境に配慮した施工方法	工事部門	情報化施工 施工面積 前年度比6%増加	16.8% 減少	<span style="color: green;">🍀</span>	情報化施工 施工面積 前年度比 6%増加	

\* 燃焼システム：アスファルト合材製造時に使用材料を加熱する機械装置

### ● 環境行動計画の実績と今後の取り組み

当社の事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量の約98%は、アスファルト合材や再生路盤材などの舗装材製造に起因するものです。それゆえ、アスファルト合材製造数量の増減がCO<sub>2</sub>排出量に大きく影響するため、2015年度からはアスファルト合材製造1t当たりのCO<sub>2</sub>排出量で前年比1.5%削減を目標としました。

しかし、2015年度は前年比で同数となり目標を達成することが出来ませんでした。バイオマス燃料を使用する工場は全99合材工場の中で14工場ありますが、東京合材工場のバイオマスコージェネレーション施設の停止による再生可能エネルギー使用量の減少が大きく影響しました。

製品部門の熱効率改善型燃焼システム設置については、4ヵ所設置 (累計16ヵ所) を目標とし、5ヵ所設置 (累計17ヵ所) という結果となりました。2016年度は10ヵ所 (累計27ヵ所) を目標とし、2015年度よりもさらなるCO<sub>2</sub>削減を目指します。

### ● 熱効率改善型燃焼システムの推進

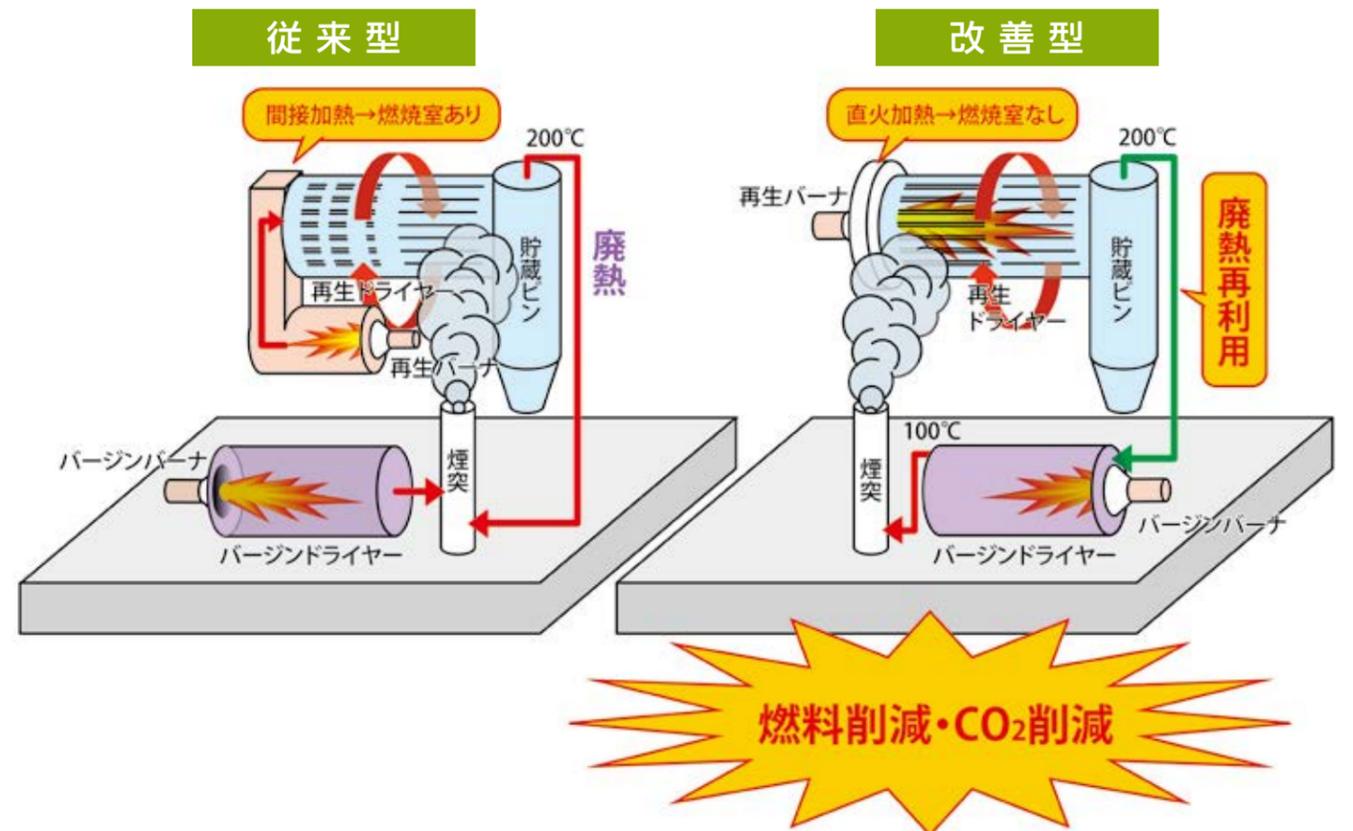
燃焼システムとは、アスファルト合材製造時に使用材料を加熱する機械装置のことです。

従来型では、再生骨材 (アスファルト塊を破碎して作ったリサイクル材料) が燃えないように燃焼室から熱風を送り加熱する、間接加熱を利用していました。改善型では、燃焼炎が再生骨材に

オフィスの使用電力量は、前年度比3.0%削減を目標にしてきましたが、技術研究所において新規装置としてタワーミル (粉砕装置) を導入したこともあり、前年度比5.1%増という結果となりました。今後は新築事務所の屋上に太陽光発電設備の設置を推進し、CO<sub>2</sub>削減に貢献できるよう努めていきます。

環境に配慮した施工方法では、情報化施工面積前年度比6%増を目標にしてきましたが、小型工事、小口合材に力を入れ、情報化施工 (GPS) を使った大規模工事が減少したため、前年度比16.8%減という結果となりました。今後は情報化施工をよりアピールしていくことで、大型工事の受注につなげ、2016年度は情報化施工面積前年度比6%増を目指します。

直接当たらない技術によって、燃焼室部分を不要 (放熱面積減) とする直火加熱が可能となりました。また、従来は破棄していた再生ドライヤーの高温廃熱をバージンドライヤーの骨材加熱に一部再利用することで、燃料削減を図りCO<sub>2</sub>削減にも繋がっています。



環境に配慮した工法・技術

● バイオマス燃料の活用  
(木質タール・グリセリン)

バイオマス燃料活用合材工場



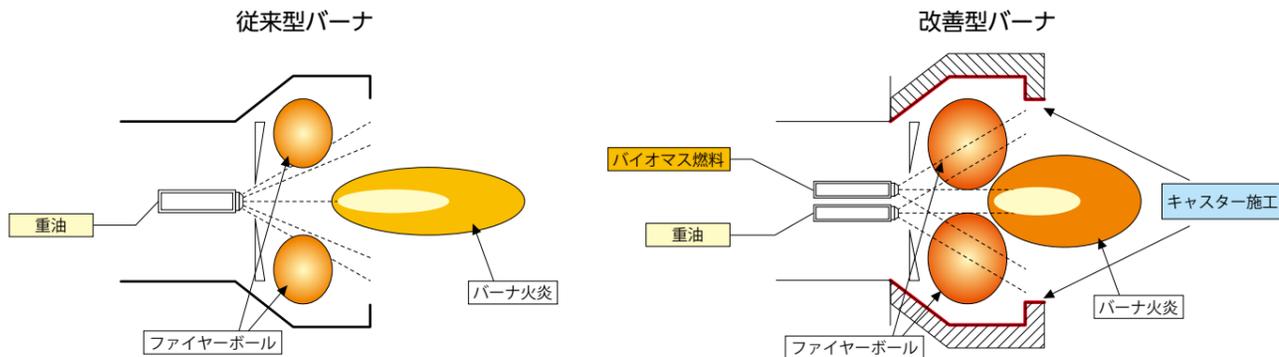
● バイオマス燃料の使用状況

当社は、2007年度からアスファルト合材の製造で使用する燃料の一部を、再生可能エネルギーであるバイオマス燃料に転換しています。これまで有効利用ができなかったバイオマス燃料を、カーボンニュートラルの観点から、アスファルト合材の製造に必要な重油の代替燃料として、全国の工場に展開しています。

2015年度は、朝霞合材工場で気体燃料の都市ガスとバイオマス燃料を組み合わせる新たなバーナの使用を開始しました。従来型バーナでは、グリセリンのように高粘度の燃料は、噴霧しても粒子が大きくなるためバーナ内でのガス化が上手く行えず、未燃

焼が発生していました。これに対し、バーナ内をキャスター施工した改善型バーナの場合、ファイヤーボールによってキャスターが熱を持ち、バーナ内の温度が高くなることでガス化が効率良く行われ、燃焼が良くなりました。これにより、重油などの液体燃料を使用している工場に加えて、気体燃料を使用している工場にもバイオマス燃料を導入できるようになりました。

今後、再生可能エネルギーのさらなる普及拡大に向けて、バイオマス燃料の導入および検証を進めていき、CO<sub>2</sub>削減に努めていきます。



当工場は、出荷量が多くグリセリンを多く使用できるため、会社のCO<sub>2</sub>削減に貢献すべく、バイオマス燃料の使用を始めました。ただ現在のところは、グリセリン量の確保が難しく混入率がなかなか上がっていませんが、今後は本・支店の協力のもと、納入業者を増やし、混入率を上げていくつもりです。現在、破碎工場の重機にBDF（生物から作られる燃料）を使用したり、今後は古くなった工場の諸設備を順次新しくしていく中で省エネ化を採り入れ、さらにCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいきます。

VOICE

北関東支店  
朝霞合材工場  
町田 隆



● KC工法 (型枠式カラータイル工法)

特長

- ① **美しい** 立体感があり、都市景観や自然環境とマッチします。
- ② **強い** 耐候性、耐衝撃性、耐摩耗性などの耐久性に優れています。
- ③ **速い** 短時間での施工、早期開放が可能です。
- ④ **軽い** アスファルト、コンクリート、鋼板面に直接施工でき、躯体に負担がかかりません。
- ⑤ **滑りにくい** 雨に濡れても滑りにくく、適度な滑り抵抗性を持ち、安全です。
- ⑥ **臭わない** 屋外のみならず、屋内でも利用が可能です。

KC工法は石調やタイル調、絵模様などを床面に演出する都市環境や自然環境とマッチした高級感あふれる景観舗装材料です。この工法は、適度な滑り抵抗を有し、耐久性に優れているため、人の往来の激しい駅のプラットホームやコンコース、駅前広場、歩道、歩道橋などに最適な塗り床材です。

速硬化性のMMA樹脂をバインダーとして使用しているため、短時間での施工、早期開放が可能です。臭気の問題があり、屋内のコンコースなどの室内における改修工事には不向きでした。その

ため、約2年前より低臭材での開発を進めました。しかし、低臭にすると急激に硬化が速くなり型枠を抜くことができないなどの問題もありましたが、それもようやく解決することができ、駐車場内での試験施工の検証と1年後の経過観察により低臭型のKC工法として、商品化することができました。

今後は、新幹線ホームやコンコースなど、さまざまな場所で幅広く提案していきます。



KC工法は、高級感あふれる床面にすることが可能な景観工法で、これまで東海道新幹線のプラットホーム改修工事などで施工させていただきました。プラットホームのような時間的制約を受ける現場にて、短時間での施工、早期開放が可能です。硬化までの間に発生する臭気が最大の問題でした。そのため、臭気が籠りやすい屋内コンコースや商業施設の改修工事に提案することができず、大変悔しい思いをしてきました。このたびは試行錯誤の上で低臭型KC工法が完成したことにより、これまで提案できなかった施工箇所への提案が可能となりました。今後はより多くの場所で皆様のお役に立つことができれば幸いです。

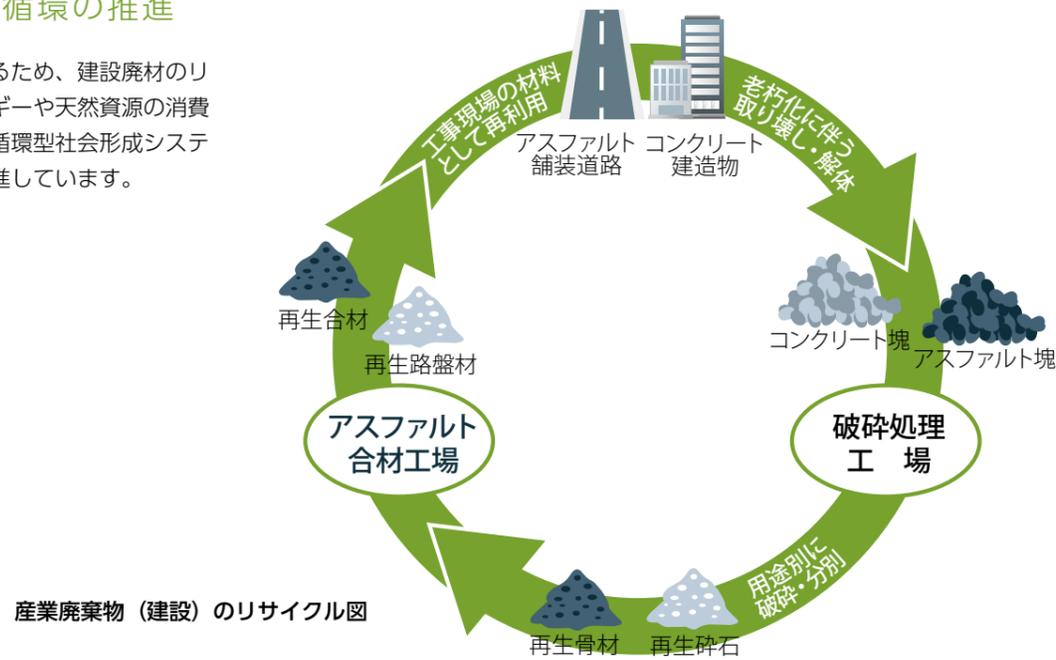
VOICE

本店 技術営業部  
設計・デザイン課  
蛭川 千之



省資源・資源循環の推進

資源の有効利用を図るため、建設廃材のリサイクルおよびエネルギーや天然資源の消費量削減などに向けて、循環型社会形成システムの構築を積極的に推進しています。



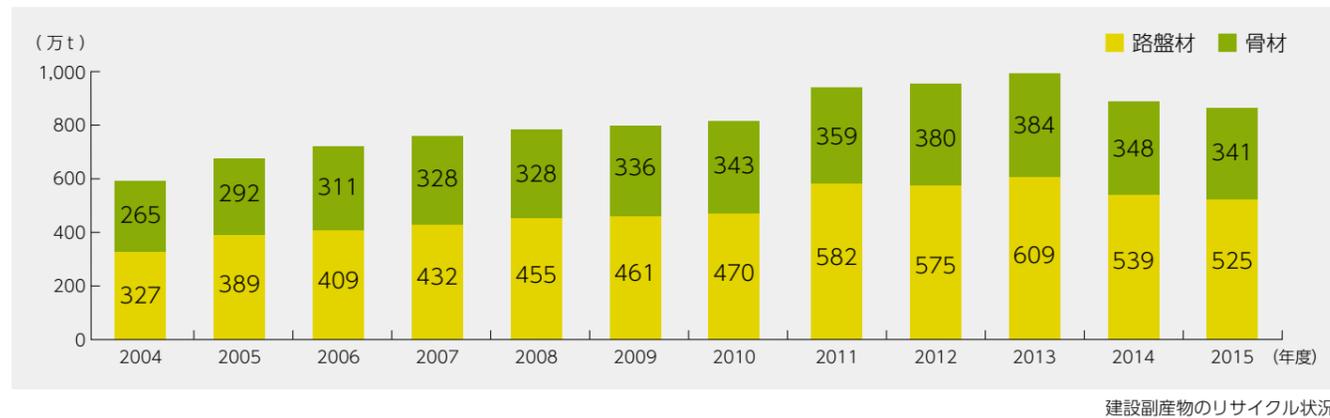
産業廃棄物（建設）のリサイクル図

建設副産物のリサイクル状況

循環型社会形成システム推進に際しては、天然資源の枯渇抑制と消費量の削減を目指し、特に建設副産物を有効利用して、再資源化への取り組みを推進しています。

具体的な取り組みとして、工事現場から排出されるアスファルト塊・コンクリート塊などのがれき類を全国91カ所の施設で毎

年800万t以上受け入れています。これは、全建設廃棄物の10%以上に相当し、これを再生骨材、再生砕石として積極的にリサイクルしています。そしてこれらの再生品を99カ所の合材工場で、再生合材および再生路盤材として製造・販売しています。

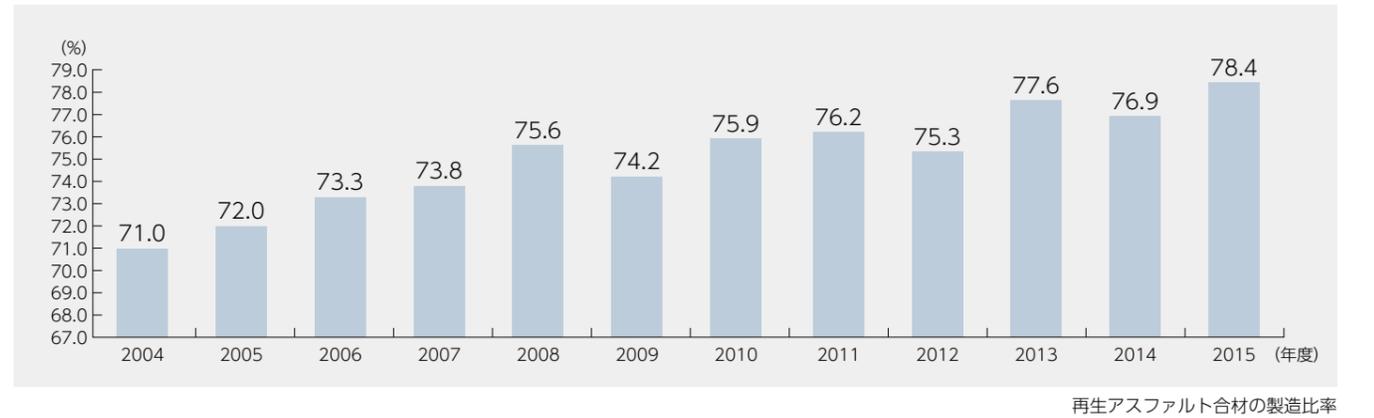


建設副産物のリサイクル状況

再生合材製造比率の推移

アスファルト合材製造数量における再生アスファルト合材の製造比率は、年々増加しており、2010年度以降は75%以上を占めています。2013年度以降は80%の大台を目前に推移しています。今後も破砕工場では、再生アスファルト合材に使用する再生骨

材の生産能力を上げるために、設備の能力アップと品質管理の徹底、工場の周辺環境に十分配慮しながら、再生アスファルト合材の製造に取り組んでいきます。

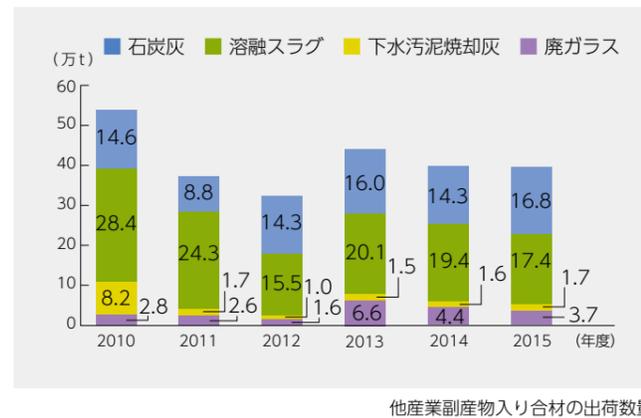


再生アスファルト合材の製造比率

他産業副産物のリサイクル状況

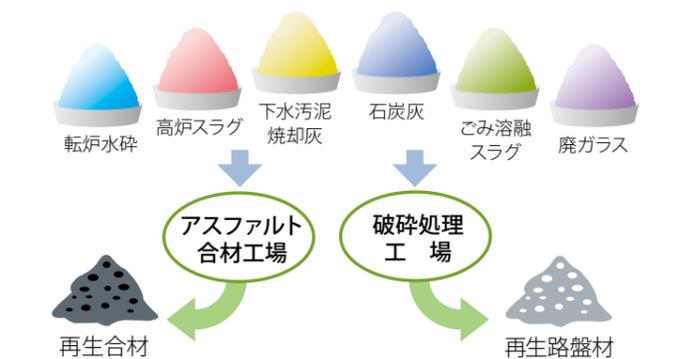
アスファルト合材に使用する材料として他産業で発生した副産物についても安全性を確認した上で活用しています。2011年3月の東日本大震災の影響で、2012年に一時的に減少しましたが2013年以降は、以前の水準に戻り高い水準を維持しています。

また、廃プラスチック、廃タイヤ、鋳物砂など、これまで廃棄処分されていた資源をアスファルト合材の材料として、再び活用できるように技術の確立を進めています。



他産業副産物入り合材の出荷数量

他産業副産物のリサイクル図



当工場では、破砕設備の老朽化によるリニューアル工事を行いました。当工場は住宅街の中に位置しているため防音、粉じん抑制および協力会社の作業環境改善を念頭に置いた対策ならびに廃材処理能力の向上を目的としました。設備全体を建屋で囲い防音材を導入することにより破砕の音が屋外にほとんどもれず、加えて4基の集塵設備、冷房完備のピッキング室を設けており、作業環境が著しく改善されたと思います。また2基のゴミ取り機、さらには異物除去磁石の4カ所設置により製品の品質向上が期待でき、さらなる地域の環境保全を目指していきます。



当工場の破砕設備は、1993年1月に設置しましたが、近年は老朽化と能力不足により主材料（再生骨材）を他社から購入せざるを得ない状況でした。しかし、2015年10月から一次破砕機にロールクラッシャーを設置し、設備の大幅改良をすることで、製造能力が2倍となりました。これにより、省資源・資源循環の促進が可能となりました。今後も品質管理をもとに、工場周辺の環境にも十分配慮しながら、再生アスファルト合材の製造に取り組んでいきます。



# 社会との共生を目指して

## 地域社会とのコミュニケーション

### ● JICA課題研修「道路維持管理」講習会

現在、どの国でも道路維持技術や修繕技術が必要な状態であり、日本の技術・製品を広めるため、2015年10月26日より約1ヶ月半の研修が沖縄で実施されました。

12カ国（ジャマイカ・サモア・フィリピン・キリバス・フィジー・東ティモール・バングラデシュ・ミャンマー・エルサルバドル・スリランカ・ミクロネシア・パプアニューギニア）から12名の受講生が道路維持管理技術を学びました。

この研修期間の中で「アスファルト舗装保全技術」について2日間講習を行いました。受講生の方々はとても真剣さと積極性があり、日本の研修では出ない質疑が多く、時間を1時間オーバーするほどの充実した内容となりました。



講習会の様子

### ● 小学生による絵付けタイル作成・設置／湯浦トンネル

国土交通省の支援のもと、芦北出水道路の湯浦トンネル内に芦北町立佐敷小学校の児童（6年生56名）が自由に描いた絵付けタイルの貼付けを行いました。

10月30日に児童の皆さんを招いてお披露目を行い、一人ひとりにタイルの貼付け体験してもらいました。その後、自分の作成した絵付けタイルの前で記念写真を撮るなどし、目に焼き付けていました。「自分の絵がずっとトンネルに残り嬉しい」「とても思い出になった」などの感想が出ていました。

また、質問のコーナーではたくさんの児童から手が挙がり、生き生きとした姿がとても印象に残る良いお披露目会となりました。



完成した絵付けタイルを見る児童たち

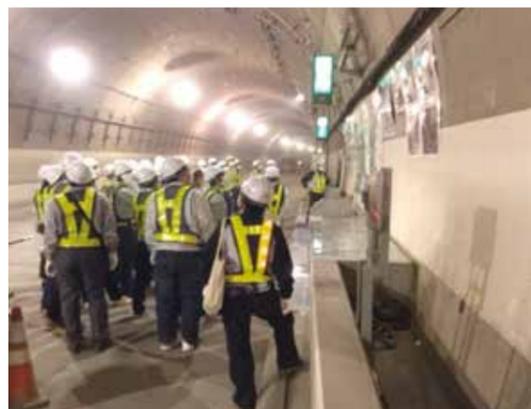
### ● 現場見学会/YK11工区～YK33工区舗装工事

2015年11月4日、首都高横浜環状北線の現場に国立苫小牧高等専門学校環境都市工学科の学生40名を招き現場見学会を開催しました。

当日は首都高速道路(株)神奈川建設局様のご協力のもと、事業の概要説明を聴講した後シールドトンネル内を見学しました。

全長8.2kmのうち約7割の5.9kmがトンネル工区で、そのトンネル内ではさまざまな安全対策が実施されています。特に車道部の下部に設けられた避難通路へは非常口からすべり台を使って避難できる構造になっており、実際に体験した学生達からも「これなら足の不自由な方や高齢者もスムーズに避難できますね」と感想が出ていました。

担い手不足が建設業界全体の懸念となっている現在、一人でも多くの学生が夢や希望を持ってこの業界に進んでくれるよう、今後とも活動を続けていきます。



現場見学会の様子

### ● 中学生職場訪問

2016年2月3日、品川区立伊藤学園から進路学習の一環として、中学生3名の職場訪問を受入れました。

当日はプロジェクターを使って事業内容や技術および道路工事現場で活躍する重機などの講義を実施し、その後オフィス内を見学しました。

直接働く人と接することや、実際的な知識や技術に触れることを通して、働くことの意義を学んでもらいました。

最後には、たくさんの質問が出て、道路の役割や舗装の技術など、当社の事業に関心を持ってもらえました。



講義を受ける生徒たち

### ● 「けやきフェスタ2015よさこい in 府中」に出展

東京支店多摩営業所では、2014年4月から2017年3月の3年間、東京都府中市から全国初となる道路管理の包括的民間委託として、「けやき並木通り周辺地区道路等包括管理業務」を受託し、道路などの日常的な巡回管理、不具合通報対応、補修などを行っています。2015年8月29日、30日には、「けやきフェスタ2015よさこい in 府中」が開催され、当社も府中市役所とともに出席して、市民の皆さんへ道路包括管理の取り組み内容を紹介しました。土日開催ということもあり多くの方が来場され、道路管理を民間企業に包括的に委託することのメリットについて、広く知っていただくことができました。



フェスタにおける出展の様子

### ● 清掃美化活動

北海道支店東札幌営業所では、2013年から始まった「白石区まち美化プログラム」に毎年参加しています。当プログラムは、白石区内の企業と住民との連携強化を目的としたもので、今年も春と秋の2回、白石サイクリングロードの清掃美化活動に参加しました。

白石サイクリングロードは、多くの区民が通勤・通学など、さまざまな目的で利用する公共空間であるため、地域の方から「ご苦労様です」と労いの言葉を掛けていただいたり、手伝っていただいたりと、地域住民との交流の機会ともなりました。

これからも地域活動に参加し、当社の経営理念である、地域社会の豊かな生活の向上に貢献していきます。



清掃美化活動の様子

### ● 日本大学にて「資源再生工学」を講義

2015年10月28日、11月4日の二日間、日本大学生産工学部で「再生資源工学」の講義を行いました。

まずは、興味をもって聴いてもらえるように、「古代エジプトの道路は凄い!」という話から始め、本論の合間には就職活動の参考になればと、建設業界の話や舗装会社の魅力、入社後の生活などについても講義しました。

資源の乏しい我国では、循環型社会の構築がとても大きな課題です。志をもって土木工学科を専攻された学生の皆さんにその重要性を理解してもらい、将来貧資源国の模範となるような国づくりの先頭に立って欲しいという思いで講義しました。



講義をする新田工場長

仙台合材工場は、地域の人と行政がお互いに道路の清掃・美化活動に取り組む「スマイルロード・プログラム」に参加しています。

2008年、宮城県にスマイルロードサポーターとして認定していただき、県管理道路の緑化・清掃などの美化や、歩道の除雪などのボランティアを行なっています。当工場は2015年度は2回ほどゴミ拾いに参加しました。

今後もボランティア活動を通して、まちづくりのお手伝いを続けていきたいと思っております。

VOICE

東北支店  
仙台合材工場  
齋 愛美



2015年10月、ながさき建設技術フェアに参加しました。長崎県立総合体育館「アリーナかぶとがに」を会場として毎年開催されており、今回で12回目を迎えています。毎年2,000人近い来場者がある中、当社もブースを構え、マイルドパッチやスマートパッチなどのパネル展示や実演を通じて、広くPRさせていただきました。

私も2日間、いろいろと勉強してブースに立ちましたが、役所の方や高校生にびっくりするぐらい熱心に質問され、人に説明する「難しさ」と、分かってもらった時の「楽しさ」を実感でき、貴重な経験をさせていただきました。

VOICE

九州支店  
製品部製品課  
北村 多都子



## 従業員とともに

### ● 人材育成

#### 奨学金制度導入

2016年2月、グローバルな人材確保を目的に、フィリピンのマプア工科大学への奨学金制度を設立しました。

土木工学部に在籍する3年生で、卒業後、当社および当社関係会社に勤務可能な学生を対象としています。毎年2名程度の学生を対象に支援していく予定です。

#### レベルアップ研修・実務研修の実施

社員一人ひとりが業務を通じて能力を発揮し、さらなる成長と人格形成を支援するため、各分野でレベルアップ研修および実務研修を行っています。

	研修名	主管部門
レベルアップ研修	新入社員研修	人事部
	新入社員フォローアップ研修	人事部
	2年生研修	人事部
	新任係長研修	人事部
	新任管理職研修	人事部
実務研修	現場代理人研修	工務部
	総合評価対策研修	工務部
	営業所長研修	工務部
	3～5年生研修(土木)	工務部
	土木課長・係長研修	工務部
	ネクソコ積算研修	工務部
	施工指導担当者研修	機材部
	合材工場機械担当者研修	機材部
	情報化施工研修	機材部
	品質管理担当者研修	技術部
	工事営業担当者研修	営業本部
	統括安全衛生責任者研修	安全環境品質部
	事務3年生～係長研修	経理部
工場長研修	製品部	
製品営業担当者研修	製品部	



マプア工科大学訪問



2年生研修



3～5年生研修

### ● ワークライフバランスへの対応

ワークライフバランスとは、個人の働き方や企業の制度を見直すことで、両方が相乗効果を生み、生活を充実したものにすると考える考え方です。

#### 当社制度

● **出産時休暇規程**：社員等について、その配偶者が出産する際に、次世代育成支援対策の一環として休暇取得を促進するために2005年4月1日に制定。

● **育児・介護休業等に関する規程**：育児・介護休業法に基づき、

社員等の育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇育児のための所定外労働時間の免除、育児・介護のための時間外労働および深夜業の制限ならびに育児・介護のための短時間勤務等に関する取り扱いを2010年6月1日より、適用。

他にも育児短時間勤務・年次有給休暇・療養有給休暇・結婚有給休暇・忌引有給休暇・生理有給休暇・産前産後の休暇等の制度があります。

育児休暇では、2015年度に23名が取得し、復職率は95.7%という結果となりました。

第2子を出産し、この4月に育児休業から復職しました。

現在は育児短時間勤務の制度を利用しています。定時よりも1時間早く仕事を終わらせるため、余裕をもって保育園に迎えに行くことができ、買い物や家事を済ませることもできます。

短時間勤務による業務分担や勤務中の急な子どもの病気への対応など、日々職場の皆さんの協力によって、自分の復職が成り立っていると感じています。また、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに仕事をしていけば、職場の皆さんから理解も得られるとも感じています。

この制度を上手に利用し、無理なく育児と仕事を両立できれば良いと思います。

VOICE

東京支店  
製品部製品課  
薄 須美子



## マネジメントシステムの推進

### ● 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムは、10頁に示す「環境行動計画と目標」を達成するために、本店・支店・営業所・合材工場の各部署において環境目的および目標を定め、PDCAサイクルにより取り組む仕組みです。

この取り組みについては、9月に審査認証機関から再認証審査を受け、改善を要する指摘0件、観察事項2件となり、再認証されました。観察事項については自主的に改善し、環境パトロールで確認します。

### ● 労働安全衛生マネジメントシステム

従来の6支店に加えて、10月北海道支店で労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)の認証を取得しました。その他の支店においてもこの規格に準じて労働安全衛生マネジメントシステムを運用しています。

安全衛生管理については、次の5項目を重点実施事項として取り組んでいます。

- 1) 社員・協力会社の全員の安全衛生教育(資格・社内教育)の推進
- 2) 作業内容に即した『作業安全指示書』によるリスクアセスメント
- 3) 交通ルールの厳守と危険挙動の撲滅
- 4) 重機周りの接触防止と現場内誘導員の指名配置
- 5) “スイッチオフ”と“一人作業禁止”のための作業指揮者の配置

### ● 品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステムは、認証範囲を「公共工事における舗装及び土木構造物の設計及び施工」として、10月に従来の支店毎の認証から、全店一括の認証に変更となりました。

公共性の高い国道、都道府県道、市町村道および高速道路などの工事において、発注者の要求事項に定めるために品質マネジメントシステム(ISO9001)を運用しています。

また、民間工事および合材工場は認証を受けていませんが、顧客満足度を高めるために従来のノウハウを活かして自主的に品質マネジメントシステムを運用しています。



環境サーベイランス

## 災害への対応

### ● 避難訓練

2016年1月13日、直下型震度6の地震を想定し、本店で避難訓練を実施しました。当日は参加者100名全員が新しく配布したヘルメットを被り、本店ビル内の指定避難場所へ5分以内に集合しました。その後、大崎消防署副署長から地震対策と避難訓練の説明をしていただき、消防署訓練隊の方々にAEDの使用方を指導していただきました。

また、万一自社ビルから避難せざるを得ない状況を想定し、公共避難場所まで実際に歩いて避難経路を確認しました。

併せて、本店所属149名に安否確認メールを送信し、全員の無事を確認しました。



AED訓練の実施

避難訓練に参加し、救命講習の中で消防署の方からAEDの使用方を教えていただきました。救急車が到着するまでの間の対応で、助かる可能性が大きく変わるとおっしゃっていたのがとても印象に残っています。もし倒れている人がいたら、誰かがやってくれるという人任せの考えではなく、恐れずに自ら積極的に行動することが大切だと改めて感じました。

AEDに対しては、使い方が難しそうイメージを持っていましたが、実際に使ってみると音声に従って操作をするため、初めてでも使うことができました。

しかし、実際に現場に遭遇した場合に、焦らず、的確な行動をとれるよう、これからも定期的に救命講習を受講し、正しい知識と技術を身に付けていきたいと思っています。

VOICE

本店 営業部  
営業企画課  
大林 花鈴



■ 全社基本方針

『顧客のニーズに応え、人と環境にやさしい道づくり』

を基本とし、顧客と地域社会に信頼感・安心感・満足感を与える品質を提供する。

● 上記方針を確実にするための優先項目

1. 労働安全衛生活動の推進と、地球環境の保全に努めます。
2. 品質と顧客満足の向上のために、マネジメントシステムを継続的に改善します。
3. 法令・規制、倫理規範を遵守した企業活動により、社会的責任を果たします。

経営の理念

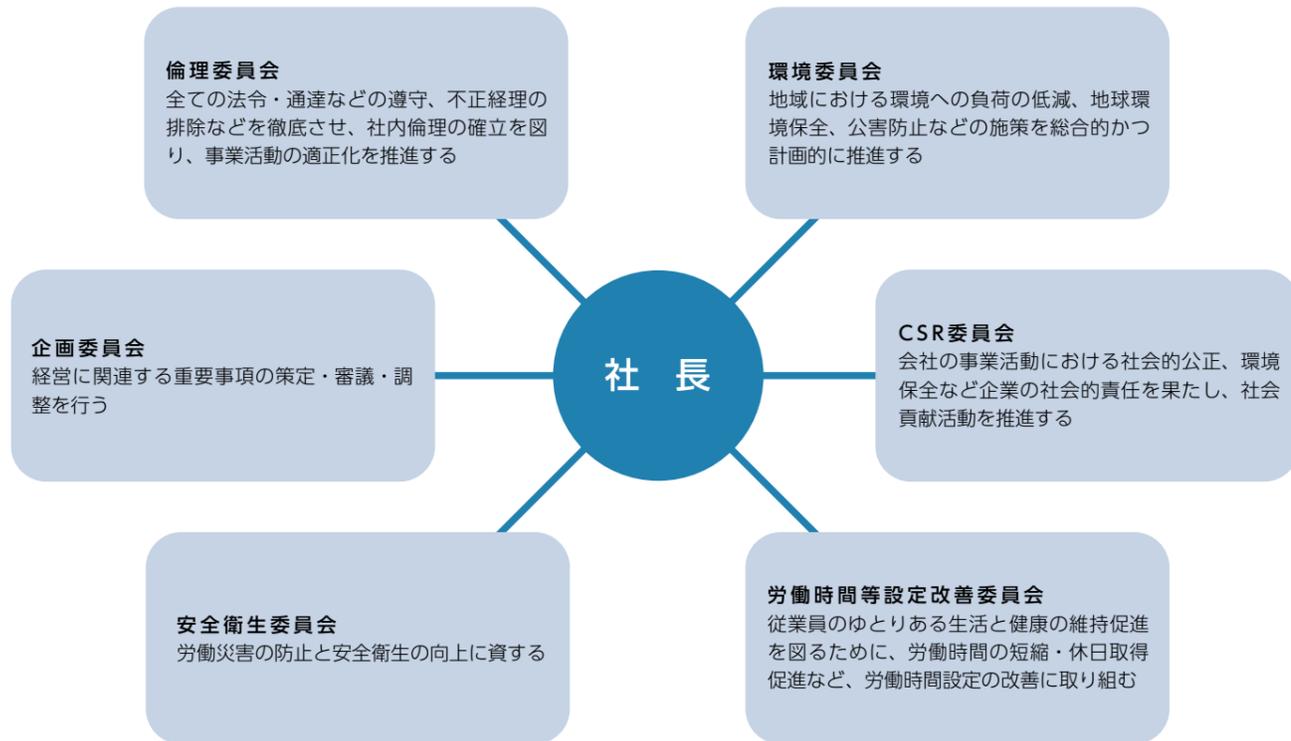
わたしたちはひろく社会資本の整備に貢献し、地域社会の豊かな生活の向上に寄与することを企業活動の使命と自覚する。

信義・誠実の原則のもと誇りと責任をもって、人と環境を大切にされた事業活動を推進し安全を第一として、より優れた技術と品質の提供により快適で潤いのある生活空間の創造を目指し、もって豊かな地域社会の発展に貢献する。

● CSR推進体制

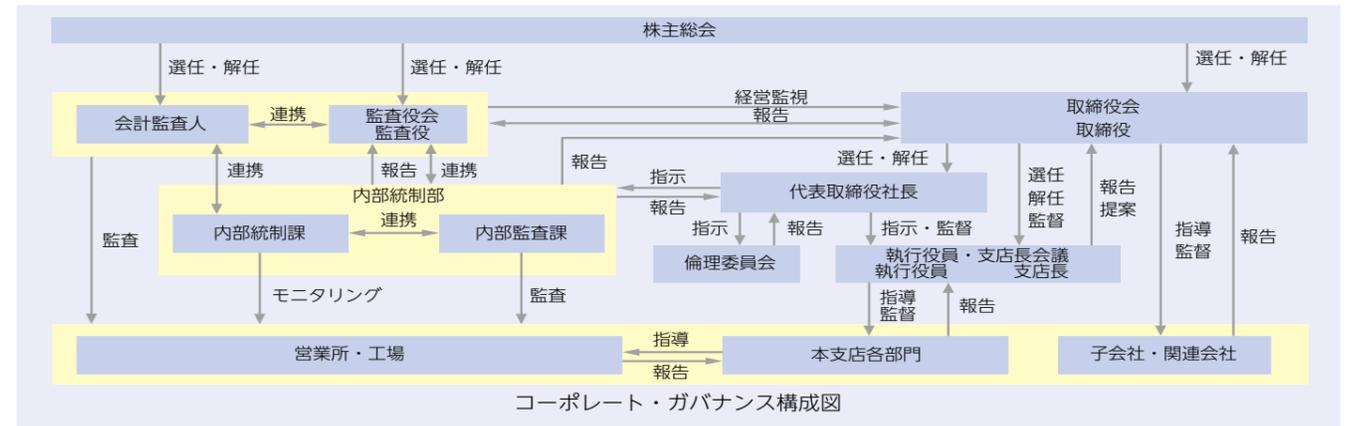
さまざまな視点から下記の各委員会において、CSR活動を推進しています。「遵法」を最優先課題とし、コンプライアンス・リスクマネジメントを徹底した事業活動を通じ、企業の社会的責任を果たします。またそれぞれのステークホルダーとの繋がりを尊重し、持続可能な企業づくりを目指しています。

CSR報告書作成グループは、CSRに基づいた事業活動、産業施策、社会貢献活動などについて、各委員会から情報を収集し、全てのステークホルダーに対して、公正で透明な報告書の制作に努めています。



● コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについて、株主をはじめ取引先、従業員および地域社会を含む全ての利害関係者の利益を考慮しつつ、継続的に企業価値を高めていく手段であると考え、経営上の最重要課題の一つと位置づけています。



取締役会

経営の機動性を重視し、取締役の員数を12名以内とすることを定款で定めており、取締役会は現在11名（うち社外取締役2名）で構成されています。取締役会は、毎月1回開催することとし、必要に応じて臨時に開催しており、法令に定められた事項および当社取締役会規程に定められた事項について決議しています。

社外取締役および社外監査役

より透明性の高い企業経営を図るとともに経営監視機能を強化するため、社外取締役2名、社外監査役3名を選任しています。選任にあたっては専門性を重視しており、それぞれ独立した立場から幅広い知識と豊富な経験によって、社外取締役は弁護士として経営に対する助言と監視を行っています。社外監査役は、弁護士、公認会計士および法律の専門家として当社の監査を行っています。

執行役員・支店長会議

経営責任を明確にし、経営の意思決定・監督機能の強化を図ると同時に、業務の執行機能を強化するため執行役員制度を採用しています。また、全国に11の支店を設置し、支店長がそれぞれの業務を統括しており、執行役員およびこれら支店長で構成する執行役員・支店長会議を開催しています。取締役会の方針に基づく会社の計画、経営管理の具体的方針等を決定するとともに、取締役会に対し業務の執行状況の報告および業務執行に関する提案を行っています。

監査役会

監査役会は、3名の社外監査役を含む5名で構成されており、法令の定めおよび当社監査役会規程に従い、取締役の職務の執行状況を監査し、経営の監視を行っています。

内部統制部

内部統制部において、内部統制の評価および内部監査を行っています。内部統制課は定期的にモニタリングを行い、全社的なリスク管理の状況および内部統制の有効性・効率性の評価を実施しています。また内部監査課は監査計画に基づき会計監査および業務監査を実施しています。2015年度は全11支店・30営業所・24工場の内部監査を行いました。

● コンプライアンス

コンプライアンス体制を構築し事業活動の適正化を推進するため、倫理委員会を設置するとともに前田道路倫理綱領を定めています。

倫理綱領は、①経営の理念②行動規範③安全確保・環境改善④法令遵守⑤決算の適正性の確保の5項目から成っています。

コンプライアンス教育

倫理綱領を基に、役員、執行役員および支店長ならびに管理職に対する研修を実施し、また社内集合研修や会議の場を通じ全ての従業員を対象に啓蒙活動を行っています。

2015年度は社内集合研修などで延べ899名にコンプライアンス教育が行われました。

環境パトロール

廃棄物処理法の遵守を主目的に監視を行い、適切な処理が行われるように努めています。

2015年度は、4支店・3営業所・6工場で環境パトロールを実施しました。

## 会社概要 (2016年3月31日現在)

### ○ 事業概要

社名 前田道路株式会社  
 本店所在地 東京都品川区大崎1丁目11番3号  
 設立年月日 1930年(昭和5年)7月19日  
 資本金 193億5,083万円  
 決算期 毎年3月31日  
 株式上場 東証第一部  
 従業員数 2,247人  
 建設業許可 国土交通大臣許可(特-24)第2313号

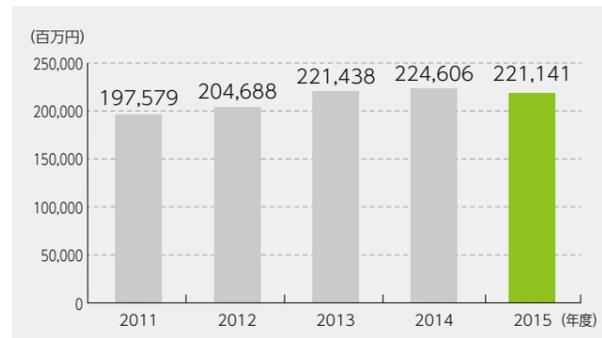
### 主要な事業内容

1. 土木建築工事の請負、設計ならびに監督
2. 土木建築工事の諸材料の製作ならびに販売
3. 産業廃棄物の処理およびその再生製品の販売ならびに土壌浄化

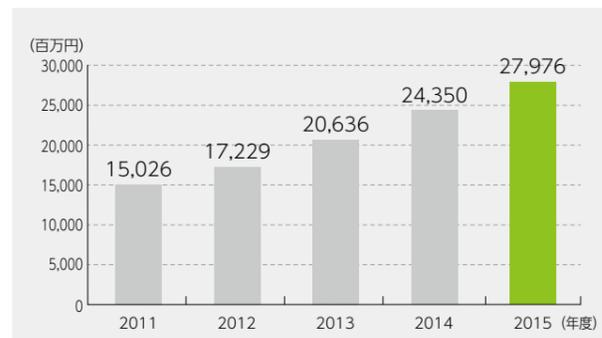
### ○ 全国の事業所

支店 北海道・東北・北関東・東京・西関東・中部・関西・中国・九州・北陸・四国  
 その他 技術研究所  
 営業所 119カ所  
 合材工場 99カ所  
 破砕工場 89カ所  
 乳剤工場 12カ所  
 製品販売所 5カ所

### ○ 売上高



### ○ 経常利益



## 第三者意見



環境専門家・Ethical life advisor  
 株式会社 FEM 代表取締役

### 山口 真奈美

自然環境と人間の経済・社会システムのバランス構築を目指し活動。  
 2003年株式会社 FEMを設立、環境・CSR・生物多様性・認証等の研究・評価・教育事業の他、企業活動やライフスタイルを、よりエシカルに転換することを目指し講演執筆等も手がける。  
 また、国際的認証機関Control Unionの日本法人として、環境や社会に配慮した持続可能な国際基準を軸に、多岐にわたる認証にも従事。

今回のCSR報告書では、若手との100周年に焦点を当てた未来への想いが詰まった特集がありますが、世代を超えて共に感謝し尊重し合いながら、同じ未来について歩む姿が目に見え、素敵な対話がなされています。前田道路の特徴の一つでもあるブロック制という独立採算制は、当然課題やリスクも伴いますが、事業所や個人が尊重されながら、本業を通じて社会をよくしていきたい、支えたいという従業員の想いと共に、やりがいを持って業務を遂行なさっていることが伺えます。さらに、建設業界全体が担い手不足である一方、特集や社員のVOICEから読み取れるのは、女性や若手にも活躍の場があり、それを支える先輩方と会社の姿勢は、今後どんな荒波が訪れようと、乗り越えていく絆があることを確信させてくれることでしょう。

環境性報告では、「マイルドパッチ」やバイオマス燃料の導入、産業廃棄物を積極的にリサイクルすることで循環型社会に大きく寄与されている点は、時間の経過と共に当たり前のように社会に受け入れられてしまうかもしれませんが、大変素晴らしいことです。

また、環境行動計画と目標報告においても努力の結果が伺えますので、達成できなかった項目については本文に記載されている内容と合わせて、目標を達成させていくための施策を個々に掘り下げられると、読者や関係者にも理解しやすいのではないのでしょうか。

社会性報告については、グローバルな人材確保を目指した奨学金制度の導入や、女性が育児休業後も復帰しやすい体制、また様々な層の方々への教育やコミュニケーションなど、昨年に続き多岐にわたる活動が拝見出来ます。

国内でも地域格差があるかも知れませんが、昨年に引き続き、環境・社会的リスクの把握と取り組みの強化を通じて、取引先や利害関係者への配慮も合わせて工夫しつつ、すべての方々が共に輝ける社会への道筋が見える化されることで、更に深みが増すことでしょう。

それから、社会からの信頼という点では、入札に関する件の背景と対策について、トップメッセージにて真摯に対応と今後についても方針を打ち出されており、正面からこの問題に取り組んでいる姿勢が伺えました。日本では、時には地道な努力や尽力してきた積み重ねの結果よりも、ネガティブな話題に焦点が当たりがちですが、本来は表舞台でなくとも世の中を支えている事業や人々があってこそその社会でもあります。国際社会の中でも企業は様々な問題に直面していますので、国内外問わずその先進的な多くの事例を参考にしつつ、コンプライアンスの強化や再発防止と問題点の根本的解決、そして業界をも巻き込みながら、良い方向へと新たな時代を切り開く果敢な挑戦を望みます。

時々新興国に何うことがあります、生活の基盤自体が違った状況下で、インフラの整備や道の在り方がどれだけ重要か、その美しく安全な道が、どれほど私達の支えになっているかを痛感します。2030年に向けて、国や国際社会でも持続可能な開発目標(SDGs)が掲げられておりますが、生活に欠かせない業界でもあることから、将来貧資源国の模範となる為にも、既に実践されている世代や国を超えた教育・交流等を通じて、日本の技術の指導と志の伝授が未来へと繋がり、国際社会でも活躍されることを期待しています。

### 編集後記

今回の特集は「2030年の前田道路」というテーマで、ベテラン社員と若手社員の座談会という、初の試みとなりました。若手社員がベテラン社員を前に、自分の意見を述べる事ができるのか当初心配しました。しかし、その心配は杞憂に終わりました。むしろ、若手社員の皆さんは自分の意見を持ち、それを堂々と話し、頼もしく感じました。

また、海外の学生を受け入れる試みも始まりました。当社においてもグローバル化は避けられない流れです。これからを担う若手や女性、海外からの人材が、個性を失うことなく、持てる能力を十二分に発揮していただけたら、それがさらなる社会貢献に繋がると思います。

第三者意見は、前回に引き続き株式会社FEM代表取締役 山口様にお願ひし、我々では気付かない点を多々ご指導いただき、誠にありがとうございました。

最後に、本報告書発行にご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

### お問い合わせ

前田道路株式会社  
 総務部  
 〒141-8665  
 東京都品川区大崎1丁目11番3号  
 TEL : 03-5487-0017  
 FAX : 03-5487-0010  
 URL : <http://www.maedaroad.co.jp>

【発行】2016年10月(次回発行予定2017年10月)



# Kids Painting

For Environment & Safety world



ここでは、当社ならびに関係会社社員の子どもたちが、環境や安全をテーマとして描いた作品を掲載しています。



## 前田道路株式会社

本店 〒141-8665  
技術研究所 〒300-4111  
北海道支店 〒060-0042  
東北支店 〒980-0802  
北関東支店 〒330-0854  
東京支店 〒108-8643  
西関東支店 〒231-0032

東京都品川区大崎1-11-3  
茨城県土浦市大畑208  
札幌市中央区大通西11-4-16ダンロップSKビル  
仙台市青葉区二日町4-11 ウインド・エコパワ- MKD9ビル  
さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-11ビル  
東京都港区白金台5-22-12 前田道路白金ビル  
横浜市中区不老町3-12-5 下山関内ビル

Tel.03(5487)0011(代)  
Tel.029(833)4311  
Tel.011(777)5555  
Tel.022(265)1151  
Tel.048(643)3641  
Tel.03(3448)2231  
Tel.045(662)4121

中部支店 〒460-0008 名古屋市中区栄5-25-25 MKD名古屋ビル  
関西支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-5-30 MKD10大阪ビル  
中国支店 〒730-0045 広島市中区鶴見町4-22 MKD1ビル  
九州支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-14-1 スフィンクスセンター  
北陸支店 〒950-0916 新潟市中央区米山3-2-11 新潟山MKD5ビル  
四国支店 〒760-0050 香川県高松市亀井町7-15 セントラル第1ビル

Tel.052(262)1320  
Tel.06(6253)7501  
Tel.082(246)4422  
Tel.092(411)9421  
Tel.025(241)0460  
Tel.087(862)1780



この印刷物で使用している本文用紙は、森を元気にするために間伐した木材の有効活用に使っています。